

2周年 活動報告書

2022.4.1 発行
編集協力 六甲でざいん

こんな取り組み始めました

「こどもボランティアカード」

「こどもボランティアカード」を始めました。子どもなら誰でも登録でき、大和公園のゴミ拾い、あすパークやお家でのお手伝いなどをするとポイントがたまり、5ポイントごとに景品をプレゼントしています。子どもたちは本当に楽しそうにボランティア活動をしています。



「六甲あすパークマルシェ」ギフトセットはいかがですか

六甲あすパークマルシェは、フリマBOXの仲間が集まり、皆の作品を集めたギフトセットを販売したり、第3土曜に“あすパーク芝生でマルシェ”(屋外フリマ)を開催しています。ここにしかない神戸土産を500円～ご要望に合わせ詰め合わせいたします。



今後に向けて

「地域共生拠点あすパーク」のチャレンジに終点はありません。公園という公共空間に立地するこの場は、暮らしがよいまづくりのため、実に幅広い社会実験が展開できることが証明されました。子どもからシニアまでが集まることができる、運動、健康づくり、モノづくり、エコ推進、歌、園芸、芝居、居場所等々、屋内外問わず多彩なプログラムが実施できる…もっとできるかも!これからも皆さんとつながりながら、更につながる活動を創っていくことをとても楽しみにしています。

(CS神戸理事長/中村 順子)

あすパークで ●寄りぬやまとのもり ●智頭町プログラム ●哲学カフェ ●こどもLABO ●神戸ロボットクラブ ●六甲山を活用する会 ●公園de園芸療法
実施中の他の活動 ●みんなのひろばリーチ ●美力フェ ●ザ・サードプレイス神戸 ●自由演劇俱楽部えん ●誰でもカフェ ●教えてアガサ ●土曜日のピートルズ

地域の方からのエール

灘区社会福祉協議会では、子どもの居場所の支援をしています。「こどもりビング」では、子どもたちが友達と一緒に宿題をしたり、クイズを楽しんだり、和気藹々と過ごしている様子がとても印象的でした。

また、シニア・大学生のボランティアスタッフがいることで、多世代交流ができるあたたかい居場所だと感じました。コロナ禍で大変な時期ですが、今後も地域に愛されるコミュニティの場として、更に発展することを願っています。

灘区社会福祉協議会
小倉 里桜さん

あすパークは地域の子どもたちが入りしたり、ご高齢の方がほっこりしていたり学習会を開いていたり…とても開放的で素敵な空間ですね。

また、そこで活動されている方々も笑顔が素敵で「頑張っている人を応援したい」という飾り気の無いシンプルな感じが伝わります。

今、社会に最も必要とされている地域に密着した居場所で今後の活躍が楽しみです。

生活協同組合
コープこうべ
第3地区本部
本田 朋美さん

朝、子供たちは登校すると、前日行った宿題を先生に出します。その中に「音読カード」があり、子供たちは、家で保護者に音読を聞いてもらい、保護者に聞いたサインを書いてもらいます。そのサインの中に「こどもりビング」と書いてあるのを見ました。

子供たちがあすパークで音読を聞いてもらっていることがわかりとても身近に感じた瞬間でした。これからも、放課後の子供たちの居場所として、そして様々な地域課題に対応していく素敵な場所であり続けることを期待しています。

成徳小学校
2年1組担任
大友 賢治さん

徳井町一丁目で長年ゆばの製造をしています北山食品と言います。お爺さんの代からこの地域の方々に色々助けて頂き続けてこられたのは、やはり人の繋がりでした。人の繋がりを目的とした拠点が地元地域にある事は何かと心強いと思います。

食品ロスの活動にも取り組んでいるとの事で弊社の工場から出るおからを使用したおから研究会など、とても嬉しい思います。

これからも何かお役に立てれば、地域の方への恩返しになるかなと、思っています。

北山食品株式会社
代表
北山 仁司さん

地域共生拠点 あすパーク

協働とつながり 暮らし続けられるまちへ

2020年1月にプレオープンした「地域共生拠点あすパーク」。コロナ禍と重なった2年間でしたが、多彩な活動が生まれ、新しいつながり(コミュニティ)が見えてきました。協働とつながりで育まれてきた様々な取り組みの中から6つのケースを紹介、活動が生まれる経緯や支え合う機関・団体等の活動資源、成果や課題をオンライン的にまとめました。皆様のご参考になれば幸いです。

あすパーク こどもりビング

こどもと考える放課後居場所!



ケース 1

『あすパーク』での社会実験活動から 進化した事業。



あすパーク建設時より子どものためのプログラムを構想していたが、2020年11月に事業構想の検討委員会を開催し、事業計画・カリキュラム・利用メンバー・スタッフ募集等事業の準備に取りかかることができた。半年弱を経て2021年4月から試験的に開設したところ好評を得て利用メンバーの見通しがついた。7月からは神戸市補助事業として採択され週1回、10人利用を固定的に確保し事業が継続している。

●公園という立地で子ども向けのプログラムは最高の相性である。
●子どもが中軸に据われば、学生や大人シニア等様々な人材が集まる。
●「あすパーQ」に様々な市民が出題者として参加し多様性が体現できている。
●多様で多彩な人がつながる可能性を公園が持っていることが再検証できた。

●神戸市運営費補助のみでは十分な運営ができない。
●利用者、保護者、スタッフ、支援者があすパークの理念を共有すること。

あすパーク基本情報

地域共生拠点 あすパーク

神戸市灘区中郷町5丁目1
(大和公園内南側)
【TEL】078-200-5293
【FAX】078-200-5294
【e-mail】aspark@cskobe.com
【開設時間】火～土
9:30～17:00 (日・月・祝日休み)



【運営主体】認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)
神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104
【TEL】078-841-0310 【e-mail】office@cskobe.com
【開設時間】月～金 9:30～17:30 (土・日・祝日休み)

学校でもない塾でもない家でもない、自分らしく過ごせる第3の放課後居場所。何事においても自ら考えることのできる人間力が身に付くよう「衣・食・住・体」のテーマで「あすパーQ」の問い合わせを立て、こどもたちと考える時間を大切にしている。下校後すぐに「宿題タイム」「もぐもぐタイム」目玉の「あすパーQ」と続くプログラムはこどもも満足する内容となっている。

都市公園内で緑の環境も豊か、安心かつ安全な環境抜群の場で実施中。

- ・毎週火曜日午後2～5時
- ・運営協力費 月1,000円
- ・こども小1～4年10人、スタッフ約5～7人

※この報告書は(一財)ハウジングアンドコミュニティ財団の助成を受け、発行しました。

あすパークで育まれる取組み、

地域食堂もりのこみち

食や交流で「あたたかさ」を提供!

こども・地域食堂として月1回土曜日の昼食を囲み、交流の一時を提供。施設内や屋外でのピクニック方式も取り入れ、公園の立地を活かしている。食後には絵本読み聞かせ会や昔遊びタイムも用意し、孤食の防止にも務め、コロナ禍ではお弁当やパントリー方式で工夫しながら対応。

- ・月1回 土曜日午前～昼すぎ ・こども200円 大人400円
- ・毎回こどもや大人20人程度の参加



ケース2 『あすパーク』の 講座から生まれ 発展した事業。

2020年2月より、あすパーク主催で健康食堂チャレンジ事業講座を開催し、自立できるグループへの発展を期待し、食育に関心ある市民とトライアルを企画。終了後グループは立ち上がり地域・こども食堂を開催するに至ったが、グループ内で人間関係に調整が生じ一旦休止した。のちCS神戸の支援で現在のグループに再組成され現グループの活動に至っている。

成果

一旦休止状況に陥っても、意志ある中核者と小人数があり、適切な支援があればグループとして回復できることを学んだ。

資源

ケース3 『あすパーク』で活動する 生まれた取組み。

あすパークの立地を活かし、気軽に多くの市民が参加し健康新規と社会参加につながるプログラムができるのか。あすパークより関係しそうなグループに呼びかけABCのグループが共鳴し協議し、まず月1回から始め、振り返り、今後継続できるよう仕組みを考えることとした。それまでの経費はDからの寄付金を充て実施する。

成果

プログラムに広がりができ単一ではできなかった内容となり幅広く声掛けできる。

資源

ケース4 『あすパーク』の 呼びかけて個人が連携した 合同の取組み。

地域活動の担い手発掘と新たな地域活動創出のため、「特技を活かして地域貢献サロン」を実施した。参加者は地域のために何かしたいという熱い想いを持つ方々で、料理、ヨガ、ちらし作りなど多様な特技を持っている。しかし単独でプログラムの立ち上げを行うにはハードルが高い。そこで、ゴスペルライブを中心、関連するプログラムを組み合わせたイベントを企画することになった。

成果

中核プログラムであるゴスペルライブと関連プログラムを組み合わせたイベントの立ち上げが実現した。新たな地域活動の立ち上げ形態「中核団体+関連個人による立ち上げ」が見えてきた。

つながり

2020年2月より、あすパーク主催で健康食堂チャレンジ事業講座を開催し、自立できるグループへの発展を期待し、食育に関心ある市民とトライアルを企画。終了後グループは立ち上がり地域・こども食堂を開催するに至ったが、グループ内で人間関係に調整が生じ一旦休止した。のちCS神戸の支援で現在のグループに再組成され現グループの活動に至っている。

課題

- 新たな顧客層の獲得
- 経費の捻出



あすパークでつくるいろいろなカタチ。

食べる健康 プラットフォーム

「もったいない」を「ありがとう」に!



ケース5 調査事業から 発展し課題解決に 向かう事業。

つながり

2020年12月に神戸市から「こども食堂への食材配送システムの構築に向けた検討・調査事業」の委託を受け、コープこうべ3店舗からこども食堂4団体に余剰鮮食料に限るサンプル配達を行った。店舗、こども食堂、配送ボランティア共に好評で、2021年度も継続の要望が強く、社会的意義も認められたため、「むすびえ」の助成金を受けて9月から再開、提供元の食品企業や店舗、受取側の地域・こども食堂とも2倍強に増えた。また提供元には「食べる健康セミナー」の講師を依頼した。これらの関係団体へは「食べ健だより」を配布し、食べ健PFの情報発信ももらっている。西部(学園都市)では、自転車での配達が困難なことから地元のタクシー会社と連携し、食品の運送にあたってもらうなど次々と新たなネットワークを生み出している。

成果

「つながる便」はルーティン化でき、フードロスの削減と食支援という目的の達成だけでなく、感謝の気持ちも「食べ健通信」などで積極的に伝えることで各団体との関係が密になっている。「アップサイクルくるくる食堂」や「おから・料理研究会」との連携で、余剰食材の様々な有効活用方法を提案すると同時に、食事を共にする場ができたことで、食を通じたコミュニティが生まれ始めた。「食べ健セミナー」では、地元企業、大学という異なるセクターとの連携が生まれた。これらの活動すべてに地元のシニアが多数関わっていることも力強い。

資源

神戸市

・食材配達構築に向けたの調査事業

・調査主管

・広報等

兵庫県

・シニアのごとづくり出し

としてスタッフ人材

兵庫県シニア ショートワーク事業

シニアのごとづくり

としてスタッフ人材